

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000084		
法人名	医療法人 金子病院		
事業所名	グループホーム 合歓の木(Aユニット)		
所在地	柳川市久々原44番地2		
自己評価作成日	平成26年2月27日	評価結果確定日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設開所後、本年4月に丸3年となり、地域に密着した介護施設として地域住民の方々に頼りにされ、介護の最後の砦としての存在価値を占めている。特に、隣接する母体の病院との24時間連携体制のもと、医療介護の全面的支援体制を確立しており、医療と介護の両面の支援から入居者並びに家族からは、終末期に至るまで安心して任される施設として信頼されている。
また、施設としては、新しい建物に近代的かつ落ち着いた室内施設のもとで入居者は、家庭的な雰囲気のもと、その人の持っている能力に応じた生活ができ、その人らしい暮らしづくりが遅れるようお手伝いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「入居者の能力に応じた暮らし作りを手伝う」を掲げ、ユニット会議や全体会議で話し合った職員の気づきやアイデアを実行し、次回の話し合いでモニタリングの結果に沿って修正するPDCAサイクルを実践し、異食やおむつを引き出すなどの行為が割烹着型エプロン着用でなくなったり、ゴムのアームカバーの着用で皮膚がただれるまでなめる行為を回避している。隣接する医療法人のかかりつけ医の訪問が毎日あり、タイムリーな医療的処置が行なわれ、日ごろの連携で、介護職員の情報提供スキルも向上している。また、管理者が職員と話し合っチームリーダーやサブリーダーを指名することで、職員の意欲も向上し、チームとして協働する職場づくりをしている。来訪する家族や友人・知人も多く、保育園児との交流や町内の運動会見学の継続、夏祭りの開催で地域と交流しながら、理念の個別ケアの実践が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aユニット/グループホーム 合歓の木**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールとスタッフルームに、呈示しており、毎日にミーティング時に、全員で唱和し、その理念を共有している。また職員へのメッセージにより、より高いサービス提供に指導している。(職員のマナーアップ向上について)	理念に入居者の能力に応じた暮らし作りを手伝うを掲げ、「グループホームとは?」「家庭的とは?」を話し合い、医療ニーズが高くてもそれぞれの介護の仕方を話し合っ、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の団体、組織等に属する機会はなく、日常的なつながりはないが、地域での散策や見学を通して努めて地域に交わるようにしている。また近隣の保育園児の慰問並びに地元に住居する家族等の訪問により交流を深めている。更に施設で行う季節の行事に家族や運営会議のメンバー等に参加していただいている。	母体の医療法人は、地元の信頼が厚く、近隣の保育園児との交流や町内の運動会の見学も継続している。夏祭りには、入居者の家族や近隣の方が来られ、一緒に楽しんでいただいた。隣接する医療機関の受診に来られた方が、ホームに立ち寄ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーに対してのみしかその機会がなく、その活動は、低調である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては、入居者の状況並びに行事等の実施状況等の施設の運営状況を説明し、理解を頂いている。行政機関からは、行政面の指導を仰ぎ、地域住民の委員からは、イベント行事、介護の実例等の紹介を頂いている。	家族・入居者等の参加で、定期的開催され、ホームの行事や事故内容を報告している。参加者から身近な事例の話が出たり、桜見物の場所などの情報提供があった。また、地域同業者の会議運営に関する取組みについて、市担当者から情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、施設の状況を報告し、指導助言をいただいたり、必要な折には、電話による指導連絡の交換により、密接な協力関係を築いている。	複数の保険者が関わっている徘徊ネットワークが稼働しているため、事あるときはネットワークを活用する予定である。入居者の顔写真を貼付した情報提供一覧表を作成している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体の病院での「身体抑制廃止勉強会」の資料等を紹介し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	ユニット毎や全体会議で、身体拘束をしない工夫の話し合いを重ねている。異食やおむつを引き出すなどの行為が割烹着型エプロン着用でなくなったり、ゴムのアームカバーの着用で皮膚がただれるまでなめる行為を回避している。また、外出傾向のある入居者もあり、出入口にはセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本施設の取り組むべきケアの特性として、この防止については、全職員で意識して、その発生の絶無に務めている。また病院での委員会等への出席によりその意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「高齢者の権利擁護制度・成年後見制度について」のファイルを作成した。特に家族等の保護者のいない入居者については、この制度に関して関係機関と連絡を取り合い、本人の権利擁護に努めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料を整備している。必要に応じて情報を提供する予定であるが、現在まで活用者はない。管理者が研修に参加し、資料を回覧している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時、「重要事項説明書・個人情報保護等」に関する説明を、十分に行い、疑問がなく同意できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に対しては、公的な相談窓口を紹介するとともに、施設おける苦情窓口を紹介している。また玄関ホールに、意見箱を設けてご意見を伺うとともに、家族の面会時に話を伺い、それを施設運営に反映させている。	居間から出入りしたり、菓子等の持ち込みをする家族もあり、ホームの方針について話をしている。家族が来訪した際は、2名の管理者がユニットの区別をせず、生活や心身の状況を説明している。定期的に、また季節の衣替えや布団の交換に来訪する家族もあり、意見を伺う機会も多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時及び職員ミーティング並びに個別に職員からの意見を聞き、施設運営に反映させている。	入居者の心身の状況や業務内容について、ユニット毎の会議や全体会議で情報を共有している。各ユニット毎に会議録を整備し、全職員に回覧している。業務の流れに応じて、遅出の出勤時間を見直し、入浴支援が円滑に行われるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から定期的にまた必要の都度、報告を受け、事業所の現況及び問題点を把握し、その対策に迅速に対処している。また職員が目標を持って働く職場づくりを指導している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては、そのような理由での排除は、していない。現在、男性1名、60歳以上8名の職員採用。 職場においては、お互い協力して楽しく働ける職場づくりを目指している。	職員の離職もあったが、職員の紹介での入職者もあり、チームで協働する職場づくりを目指している。横になって休息をとれる部屋やロッカーが整備され、希望休の取得を相互に協力し合っている。また、管理者が職員と話し合いながら、チームリーダーやサブリーダーを指名しているので、職員の意欲が向上している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	病院内での研修事項を当施設の職員に紹介し、この種の啓発に地道に取り組んでいる。	管理者が職員のマナーアップに関する資料を作成し、人権教育に取り組んでいる。管理者は職員の言動で気づいた点は、その都度注意を促しているが、地域の慣習の言葉遣いやインターネット上の修正は難しいとも話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度1名、認知症実践者講習並びに同管理者講習を受講した。また個々に病院での研修会への参加や施設内での職員間で実践研修に努めているが、勤務ローテーションから一同が会しにくく、系統だった研修がいまいち不十分である。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	個別的なつながりはあるが、全般に、活動は、不活発である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設等からの「状態報告書」並びに家族らの聞き取り調査により、本人の状況を把握し、不安なく入居し、施設になじめるように努めている。特に、入居時は、職員誰もが声掛けを行い、安心で過ごせるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や申込み時に、家族等から被介護者の状況を聞き、当施設で対応できる方策等について説明して、より良い関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の施設等からの「状態報告書」並びに家族らの聞き取り調査により、いま何が本人にとって必要なケアかを見極めて対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話のやり取り、スキンシップにより、密接な人間関係を築いている。そのため本人ができること(洗濯物の整理、食器の清拭等)は、共にやるように心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況の変化及び心情等については、積極的に家族に連絡を取り、報告している。その結果、事後のケアのやり方について助言をいただき、本人を共に支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き家族に連絡し、友人知人等の面会を行っている。来訪された方からは、本人の情報を聞き、その後の心のケアに努めている。必要に応じ、かかりつけの医院、歯医者等並びに美容室への往来により、関係を保持している。	近隣からの入居者も多く、これまでの宗教や趣味を通じた友人や知人の訪問もある。家族の来訪も多く、家族との関係継続やこれまでのお付き合いの継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい人同士のテーブルの組み合わせや交わりの少ない人は、できるだけみんなの場に溶け込むように手を差し出しているが、性格上、身体上、交わりを拒絶する人の対応について、やや苦慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方については、見舞いを行っている。また家族から連絡があった場合には、状況を聞き、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族等の意向を聞き、できる限り、希望に応えられるよう努めている。	隣接する母体医療法人からの入居が多く、医療情報や心身の状況の情報を、アセスメントシートに記載している。ユニット会議で、把握した入居者の思いや意向、言動を話し合い、各入居者のファイルに経時的に記載している。	ユニット会議方針等の記載と同様に、アセスメントシートを経時的に記載し、さらなる思いや意向の把握をお願いします。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居前に、利用者・家族からこれまでの生活環境等の情報を入手して、入居後に安心して過ごせる環境作りに努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、定期的に、また必要の都度、バイタルチェックを行って心身の健康状態を把握し、個人記録(介護・看護記録)を行っている。職員がその記録をいつでも見ることにより、情報を共有し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族からの希望及び職員の意見等を聞き、利用者がその人らしい生活が送れるような介護計画の作成に努めている。特にユニットごと定期的な会合を持ち、状態の把握と今後の介護の方向について共通の情報を共有している。	ユニット毎の会議で話し合った職員の気づきやアイデアを実行し、次回の話し合いでモニタリングの結果に沿って、修正するPDCAサイクルを実践している。その結果、異食やおむつを引き出すなどの行為がエプロン着用でなくなったり、ゴムのアームカバーの着用で皮膚がただれるまでなめる行為が回避されている。	ユニット会議で計画、実践、評価、修正している経過(PDCAサイクル)を介護計画に位置付けることで、理念に沿ったケアの実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の「介護看護記録等」は、職員誰もがいつでも記入できるようにしており、それを見ることで情報を共有している。またユニットごとの職員会同を持ち、利用者の情報を共有し、介護方策について検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人が持つ他の事業所との連携を密にして、利用者が最も過ごしやすく、色々な機能を利用できる体制作りにも努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバー及び家族等から、地域行事等の情報を提供していただき、地域の活動に接することで豊かな暮らしになるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を最優先にして、希望があった場合には、かかりつけ医の受診ができるようにしている。	隣接する医療法人のかかりつけ医が毎日訪問し、適切な医療を受けている。管理者の看護職員が不在時は、外来看護師が来所し、医療的な処置を行っているため、タイムリーな連携がある。訪問調査前日に熱発している入居者もあったが、介護職員による適切な情報提供もあり、解熱していた。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者自身が看護師であり、利用者の日々の状況については、きめ細かに継続して把握に努めている。また隣接する病院と密接に連絡して、医療介護については、24時間、万全の対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人内にあつては、管理者(看護師)と病院関係者と密に、連絡を取りあつて、利用者の回復に努めている。また他の医療機関に入院した際にも同様に情報の交換を積極的に行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合は、関係医療機関の主治医の指示を受けて、早い段階から家族と連携してターミナルケアの方針を決定している。	重度化対応及び終末期ケア対応指針にそつたケアを目指しているが、今年度は看取りはなかった。隣接する医療機関への家族の信頼は厚く、連携をとりながら支援する予定である。日頃から来訪する外来看護師が入居者の状況を把握しているため、介護職員も不安が少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、その対応ができるようにしているが、個々のジョブトレーニングであり、系統だった教育訓練がやや不十分である。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画及び対処マニュアルを作成し、非常時の行動準拠を職員に示して、防災意識を高揚している。また定期的な年2回の防火訓練では、柳川消防署及び施設の防火管理者等の支援を受けて、実効ある訓練に努めている。	ホーム独自の防災訓練では、消火器を使った訓練も実施している。平屋で廊下も広く、非常口や職員出入口、居間のガラス戸と、外に避難しやすい構造になっている。地域の消防講習会に、職員が参加している。	夜間を想定した避難訓練や備蓄台帳を整備し、昨今の異常気象への備えをお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重して対応している。訪室の際には、声掛けを行うとともに、入浴やトイレ使用時には、プライバシーの確保に努めている。	マナーアップに関する教育に取り組み、ユニット会議では、入居者に応じた対応や声かけを話し合っている。時には、入居者から注意を受けることもあり、尊厳に配慮して支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の目線に立てるよう留意して対話を行い、利用者自らが本人の希望等を言えるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を確認したり、希望を聞いてあくまでも利用者本位の日々の暮らし作りに努めている。また食事時間をずらすなどその人のペースにあった対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大多数を占める女性職員の特性を發揮して、きめ細かな対応により、その人らしい身だしなみ作りに努めている。年末には、職員の紹介により近傍の美容師がボランティア活動により入居者の整容を行った。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者にとっても最大の楽しみであり、その準備から後片付けまで利用者とともにできることを見つけて、楽しい食事の場になるように努めている。また献立作成に当たっては、利用者の好みを聞いて対応している。	入居者の相性や心身の状況などを考慮し、席を決めている。咀嚼や嚥下機能に合わせて、刻みやミキサー食を用意している。職員の見守りや指示、介助を受けながら、それぞれのペースで完食している。下膳をしたり、食器拭きをする利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成に当たっては、病院管理栄養士の意見を聞いたり、職員間で検討して、必要な栄養摂取ができるように努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、その人に応じた要領で確実に行って清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように誘導して排泄の自立を行っている。	ユニット毎に車イスが利用できるトイレが2ヶ所、浴室横にも1ヶ所設置され、トイレでの排泄を容易にしている。夜間頻回にトイレに通う入居者もあり、経過観察をしている。日中はリハビリパンツでトイレで排泄するが、夜間は体力を消耗したくないとの理由で紙おむつに排泄する入居者もあり、対応を検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時間以外にも10時と3時には、お茶等を提供し水分摂取に努めている。食事メニューも植物繊維を多く含む献立に留意している。便秘がちの人には水分摂取と排便の自覚を促しているが、ひどい場合は、主治医の処方による。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則としては、ひとり当たり、週2回の入浴を実施しているがその人の状況や主治医との指示により、入浴回数を増やしたり曜日を変更したりして、入浴支援を行っている。	職員2人体制で入浴を支援したり、管理者の介助を希望する入居者や、ストレッチャーでの対応もある。入浴する順番表が作成され、全員が気持ちよく入浴できるように支援している。入浴を拒否される時は、声かけを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく起きていたり、体を動かすことで夜間の睡眠がスムーズにいくようにしているが、利用者によっては、その人の身体状況等により、絶えずベッド横臥の状態にあり、夜間、十分な睡眠がとれない場合もある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服薬一覧」を作成して、利用者各位の服薬の種類及び効能等について、職員に承知させ、適正な服薬指導を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が持っている色々な能力を日々の生活において発揮していただくように留意しているが、その人の現状の対応能力も低く、そのような場の設定もやや不足である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康上、外に出れる利用者については、極力時間を見つけて、歩行介助または車椅子支援により、近隣の散歩等を行っている。ただ、医療介護を要する利用者に対する支援については、不十分である。	市名物のさげもんを作っていた入居者もあり、法人の車両を借りて、さげもん見学に出かけている。日頃はホーム周辺を散歩したり、銀行に行く職員と一緒に出かけたり、自分で化粧品を購入する入居者もあり、職員が同行している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その観念の大切さは、職員は理解しているが、現実には、難しく、施設としては、金銭の保管には注意させているが、家族との連携により、特に支援は、していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方には、施設の電話を利用してもらい、本人自身が家族に電話したりする支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設としては、採光、空間の間取り等、すべての面に介護施設としての配慮がなされており、季節ごとに利用者は、快適で居心地の良い生活が送れるようにしてある。	広い玄関には観葉植物が置かれ、クリスマス会やさげもん見学時のスナップが掲示されている。ユニット間の仕切りを閉じた共用空間は、天井が高くゆったりとした造りになっている。中央にテーブルやイス、縁側に大型テレビやソファ、畳の間が設けられ、新聞を広げたり、韓流ドラマを観たり、洗濯物たたみやおしゃべりする入居者の姿があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居室、戸外のウッドデッキ等、施設の特性を発揮して、思い思いの各人の空間がとれるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族が搬入設置を希望する家具・調度品等については、極力希望を叶えてやり、本人が使い慣れたもので、落ち着いて生活できるよう工夫している。	居室の入口に職員手作りの花を飾り、居室の間違いを防いでいる。荷物はクローゼットにきちんと整理されている。自宅から、テレビや椅子を持ち込んで居心地よく過ごせるように配慮し、空気清浄機や消臭剤を活用して清潔な暮らしを提供している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全般は、介護施設としての安全対策は、万全であり、その中で、利用者一人一人で、できることを手助けし、自立した生活が送れるように工夫している。		